

市有墓地

市有墓地の管理及び水道設備

問 市有墓地の清掃やごみの処分などについて、どのように管理しているのか。また、香焼中央墓地以外に水道が設置されていないのはなぜか。

答 墓地の管理については、除草及び樹木の剪定や通路等の修繕などは市が行っているが、ごみの処分は、各自でお願いをしている。水道設備については、開設時に周辺の水道管が未整備だったことから設置されていないが、設置する場合は、受益者負担の観点から、設置費や水道料金等は利用者負担を求め必要がある。利用者へのアンケートでは、新たな費用負担が生じるのであれば設置を希望しないとの声が多く、また、無縁墓地もあるため、公平な徴収が難しい状況である。今後、時代の変化や現場の状況等を把握しながら、市有墓地の在り方を含めて検討していきたい。



明政クラブ

福祉

子どもの発達に関する早期支援

問 障害福祉センターの診療所における発達障害児等の診療数の増加が続いているが、子どもの発達に関する早期支援として、今後どのような対策を考えているのか。

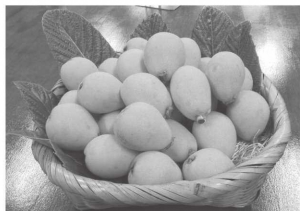
答 同センターではこれまで常勤の小児科医師や言語聴覚士等の増員、診療室や訓練室の増設など受入体制の充実を進めてきたが、診療希望者の増加により待機期間が長くなっていることから、市の附属機関である障害者施策推進協議会に専門委員を置き、同診療所の機能強化や小児科医療機関との協力体制、市民への周知を含めたことも発達センターの機能等について、同診療所の約7割は投薬などの再診であることなど、診療、療育の現状を踏まえ、具体的に協議を進めていくこととしている。今後も県や関係機関と連携し、同センターや地域における診療、療育体制の充実を図り、全市的な体制で子どもの発達に関する早期支援に取り組んでいきたい。

農水産業

ビワ産地の振興策

問 ビワ生産者の高齢化や後継者不足などにより生産量は減少傾向にあるが、ビワ産地の今後の見通しと各種振興策の効果に対する見解を伺いたい。

答 本市では本年3月に策定した第二次長崎市農業振興計画「前期計画」において、長崎ビワの主力である「なつたより」の販売量を令和4年産の69トンから令和7年産は164トンとする目標を掲げるとともに、産地においても今後5年間の目標と取組を示す計画を策定し、収益性の高い経営につながる取組を進めることとしている。



▲なつたより

近年は、これまでのなつたよりの生産拡大などの取組により販売単価は以前に比べ高くなっており、引き続き日本一のビワ産地であり続けられるよう、生産者と未来を共有しながら関係者と連携し、さらなる産地振興に向けて取り組んでいく。

公明党

環境

マイボトル運動の充実

問 環境保全や熱中症対策への取組として有効なマイボトル運動の推進のため、子どもたちがよく利用する場所においては、計画的な給水所の整備等を進める考えはないか。

答 本市ではこれまでも環境行動のひとつとしてポスターやチラシでマイボトルの持参を市民へ呼びかけている。この取組を推進するためにもマイボトルの飲料が不足した際に給水できる環境は必要であると考えており、本年5月には科学館に冷水器を設置したほか、あぐりの丘や新市庁舎などへの設置準備を進めている。今後も、給水可能な環境整備等を関係部局と連携して進め、マイボトル運動の充実を図っていきたく考えている。

